

第1回 拠点避難区防災会

令和5年度

本日のスケジュール


あいさつ、自己紹介

議題

- 1 5か年計画の進捗状況
- 2 総合防災訓練について
- 3 次回開催時期

5か年計画の進捗状況

野々市市防災5か年計画(2019~2023年度)

			目標到達
		2019	2023
拠点避難所	【目標】避難所運営体制の確立		
	拠点避難所運営マニュアルの見直し、拡充(初動期~展開期)		※地区防災計画の検討
	学校施設利用計画の作成、見直し		
		訓練の計画→実行→評価→改善を繰り返す	
(自主防災組織) 町内会	【目標】要配慮者対策の強化		
	避難行動要支援者名簿に基づく個別計画の作成		
	「逃げ遅れゼロ」や孤立者の発生を防ぐ 避難行動要支援者名簿情報提供の同意促進、地域支え合いマップの作成		
家庭	【目標】日常的な防災意識の向上		
	自宅避難所の普及		
	循環備蓄の普及		
	安否確認手段(黄色タオル)等の普及		
		市民一人ひとりが必ず起きるであろう災害に備える 防災訓練参加率の向上	

5か年計画の進捗状況(拠点避難所)

目標:避難所運営体制の確立

避難所運営マニュアルの見直し

学校施設利用計画の作成・見直し

訓練計画、実行、評価、改善のサイクルを繰り返す

実績

令和元年度から防災士が主体となって訓練を計画・実施し、次年度に向けて評価と改善を行う体制となったが、令和2年から新型コロナウイルスの感染が拡大し、十分な訓練が実施できなかった。

- ・令和2年度:町内会での独自訓練のみとし、拠点避難所での訓練を中止
- ・令和3年度:参加者を防災士、一部の町内会の方のみに限定し、コロナ対策避難所開設運営訓練を実施(富陽小を除く)
- ・令和4年度:前年同様に参加者を限定し、コロナ対策拠点避難所開設運営訓練を実施



5か年計画の進捗状況（拠点避難所）

5

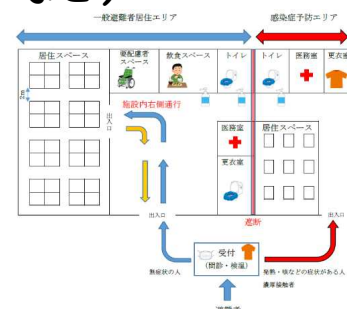
改善点

感染症対策を踏まえた避難所運営体制を確立するとともに、必要となる物資の備蓄を行った。

- ・感染症対策避難所開設運営訓練の実施（防災士参加：9/22・10/29）
- ・避難スペース改善（ $2\text{m}^2 \rightarrow 3\text{m}^2$ ）と通路の確保（2m）
- ・受付体制の確立（感染者等スクリーニング）
- ・避難所でのルールの確立（エリア分け等）
- ・備蓄品の拡充（間仕切り、ベッド、エアマット、簡易テントなど）

今後

- ・効率的かつ迅速な避難所開設の検討
- ・学校施設利用計画の見直し（ペット同行避難等）
- ・避難所運営マニュアルの見直し



5か年計画の進捗状況（町内会・自主防災組織）

6

目標：要配慮者対策の強化（地域における逃げ遅れゼロ）

避難行動要支援者名簿に記載された災害時に避難することが困難な人の個別の避難計画を作成することが重要である。

また、個別計画の作成が努力義務となり、災害対策基本法に明記された。

「避難行動要支援者名簿」

以下の条件に当てはまる人のうち、本人の同意があった人が記載された名簿

- ①75歳以上の高齢者のみ世帯
- ②要介護3以上
- ③障害者手帳2級以上
- ④療育手帳A
- ⑤その他

「避難行動要支援者個別計画」

名簿に掲載された人について、どのように支援するかを記載した計画書で「支援者（助けに行く人）」などを町内会で記載して完成する。

5か年計画の進捗状況(町内会・自主防災組織)

避難行動要支援者の個別計画の作成状況(令和4年度の実績)

※()はR3実績

- ・要支援者数 3,044人(2,745人)
- ・名簿提供数 1,880人(1,830人)
- ・作成済み数 470人(267人)
- ・作成率 15.44%(9.7%)
- ・作成済町内会 4町内会(本町1丁目県住、菅原町、太平寺、押越)

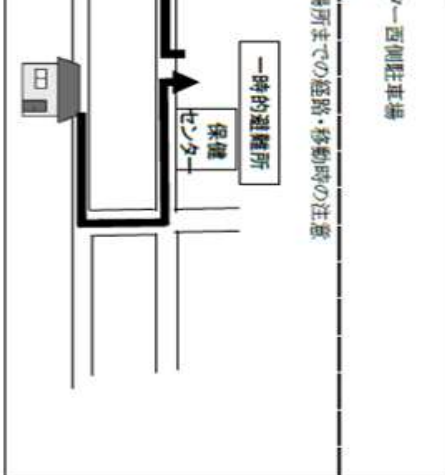
個人情報の取扱いが問題となり、作成が進まない

名簿登載者は、積極的に助けて欲しい人で、個人情報の開示について本人の同意を得ている。

【野々市市】要支援者個別計画(参考例)

① 本人 (避難行動要支援者)	フリガナ	ノノイチ タロウ
	氏名	野々市 太郎
② 同居家族	住所	石川県野々市市三納一丁目1番地
	生年月日	昭和7年1月1日
	電話番号	自宅 248-0000 携帯 090-000-0000
避難支援理由	高齢者のみ世帯 要介護3以上	
同居家族	なし	

② 避難時に配慮しなければならない事 項	<input checked="" type="checkbox"/> 立ちこせや旅行ができない <input type="checkbox"/> 音が聞こえない(聞き取りにくい) <input type="checkbox"/> 物が見えない(見えにくい) <input type="checkbox"/> 言葉や文字の理解がむずかしい <input type="checkbox"/> 危険なことを判断できない <input type="checkbox"/> 顔を見ても知人や家族とわからない <input type="checkbox"/> その他	
	・ひとりの暮らし ・耳が聞こえにくいので、大きな声でゆっくり話す ・4点杖を使用し、歩くことが不自由	
③ 避難支援者情報	フリガナ	カタサワ イチロウ
	氏名(団体名)	金沢 一郎
① 避難支援者情報	住所	野々市市三納一丁目2番地
	連絡先	電話番号1: 248-1111 電話番号2: 090-1234-5678 メールアドレス:
② 避難支援者情報	フリガナ	ハノサン サチコ
	氏名(団体名)	白山 幸子
① 避難支援者情報	住所	野々市市三納一丁目3番地
	連絡先	電話番号1: 248-2222 電話番号2: 090-5678-1234 メールアドレス: その他:

<p>居住建物</p> <p>■構造 一戸建て (一般住宅 集合住宅)</p> <p>■居室</p> <p>④ 玄関入って左手の部屋</p> <p>■寝室</p> <p>玄関入って突き当りの部屋</p>	<p>■住宅見取り図(※任意記載)</p> <table border="1"> <tr> <td>台所</td> <td>寝室</td> </tr> <tr> <td>居間</td> <td>トイレ・風呂 物</td> </tr> </table> <p>玄関</p>	台所	寝室	居間	トイレ・風呂 物
台所	寝室				
居間	トイレ・風呂 物				
<p>避難場所等情報</p> <p>■一時的避難場所 … 保健センター西側駐車場</p> <p>■拠点避難所 … 野々市中学校</p> <p>■避難経路図(※任意記載) 避難場所までの経路・移動時の注意</p>					
					
<p>⑥</p> <p>その他 ※本人からの希望事項や日頃の行動など</p> <p>・月曜～金曜日の9時から16時まで、介護サービスバスに通所 介護サービス事業所 連絡先 272-6000</p> <p>・市内に長女が住んでいるが就労しており、日常的に見守りが必要 家族の緊急連絡先</p> <p>野々市 花子(長女) 野々市市本町二丁目1番1号 自宅 248-0000 携帯番号 090-0000-0000</p> <p>野々市 一郎(弟) 東京都杉並区8番8 自宅 03-0000-00000 携帯番号 090-000-00000</p>					

5か年計画の進捗状況(町内会・自主防災組織) ¹⁰

個別計画作成の注意点

- ①地域全体で取り組む(防災士、町内会・自主防災組織、民生委員など)
- ②1人で避難できない人を助けることを第一の目的とする。
- ③支援者(助ける人)を決める。
- ④詳細な情報は、支援される人と支援する人が信頼関係を築き、徐々に計画書に盛り込む。

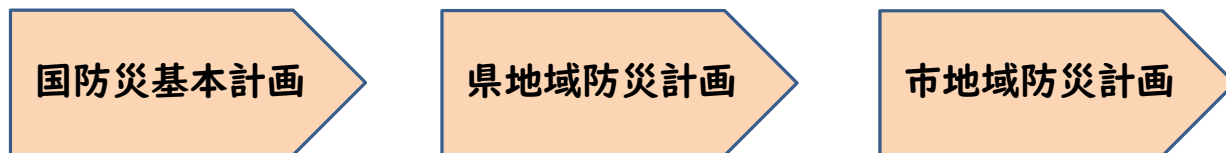


計画書作成に取り掛かることが重要
最初から完璧な計画書を作る必要はない。

5か年計画の進捗状況（町内会・自主防災組織）¹¹

地区防災計画の策定

これまでの計画



国防災基本計画

県地域防災計画

市地域防災計画

国レベルの総合的かつ長期的な計画である「防災基本計画」、地方レベルの都道府県及び市町村の「地域防災計画」を定め、それぞれのレベルで防災活動を実施してきた。（トップダウン）

しかし、東日本大震災において、自助、共助及び公助がうまくかみあわないと大規模広域災害後の災害対策がうまく働かないことが強く認識された。



地区防災計画制度が新たに創設（災害対策基本法：H26.4施行）

5か年計画の進捗状況（町内会・自主防災組織）¹²

地区防災計画とは

- ・地区居住者等により自発的に行われる防災活動に関する計画
- ・地域コミュニティ主体で居住者等の意向が強く反映されるボトムアップ型
- ・地区居住者等による計画提案制度が採用されている。
- ・都市部、農村部、海側、山側など各地区の特性（自然特性・社会特性）や想定される災害等に応じて、多様な形態をとることが可能



野々市市においては、自然特性・社会特性がほぼ同じである集落単位で作成するよりも、地区や避難区などある程度まとまった単位で作成するほうが効率的

今後の検討課題

5か年計画の進捗状況（家庭）

13

目標：日常的な防災意識の向上

コロナ禍で集まることができない → 普段できない取り組み

令和4年度の取り組み

- ・シェイクアウト訓練
- ・啓発チラシ配布
- ・家族防災会議等
- ・インフラストップ訓練
- ・安否確認（黄色いタオル）
- ・安否確認（結ネット）
- ・町内会独自訓練（一時的避難場所での独自訓練）



5か年計画の進捗状況（家庭）

14

安否確認の方法

・黄色いタオル

世帯全員の無事を確認した場合は、黄色いタオルを玄関に掲げる。
班長などが安否確認で一軒ずつ訪問する必要がなくなる。

R4:4,680世帯、43町内会で実施

(R3:4,465世帯、33町内会で実施)

・結ネット

回覧板アプリ「結ネット（災害時モード）」を使用した安否確認

R4:1,050世帯、16町内会で実施

(R3:738世帯、11町内会で実施)

拠点避難所

- ・感染症対策を組み合わせた避難所開設・運営方法の検討
- ・学校施設利用計画の検討（ペット同行避難等）
- ・地区防災計画策定の検討

町内会、自主防災組織

- ・災害時要支援者名簿の同意についての理解促進
- ・災害時要支援者個別計画作成の推進
- ・災害時要支援者避難訓練

家庭

- ・災害時も自宅で生活できるよう、防災意識の啓発
- ・各家庭で特有な備蓄の推進（女性、乳幼児など）
- ・安否確認手段として結ネットの普及



総合防災訓練について（実績）

令和4年度の実績

・総合防災訓練（規模縮小）

日時：11月13日（日）8:00以降

場所：各拠点避難所

内容：新型コロナウイルス感染症対策避難所開設運営訓練

参加者：町内会役員、防災士 ほか

人数：各避難所約30名～100名

町内会：一時的避難場所等での独自訓練（任意）



総合防災訓練について(実績)

17

主な各町内会の取り組み ※()内は令和4年度実施町内会数
備蓄品に関すること

炊き出し訓練(3)、備蓄品(防災倉庫)点検(5)

各家庭での訓練等

チラシ配布(災害対策)(1)

安否確認訓練

黄色いタオル(43) 結ネット(16)

要支援者の安否確認(電話含む)(5)

その他

車いす利用の救出訓練体験(1) など



総合防災訓練について(今後の日程)

18

今後の日程

- ・第2回拠点避難区防災会
内容:総合防災訓練の内容決定 等
参加者:防災士、町内会長、施設管理者 等
時期:7月下旬~8月下旬(予定)
- ・防災訓練事前研修
時期:8月下旬~9月上旬
参加者:防災士(町内会長の場合あり)
場所:未定
- ・令和5年度総合防災訓練
日時:9月24日(日)8:00



総合防災訓練の流れ

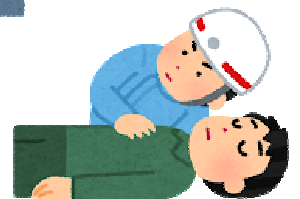
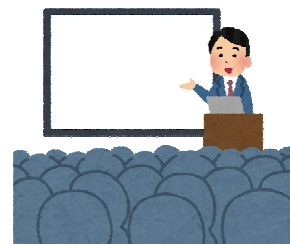
- 午前8時 訓練開始（防災無線、ほっとHOTメール等）
- ・シェイクアウト訓練（しゃがむ・かくれる・じっとする）
 - ・安否確認訓練（点呼、黄色いタオル、結ネット等）
 - ・避難行動要支援者避難訓練
 - ・一時的避難場所での独自訓練（備蓄品の点検など）
- 午前9時 拠点避難所開設運営訓練（案）
- ・避難者の受け入れ
 - ・感染症対策
 - ・避難所運営会議
 - ・備蓄品等説明
 - ・各種体験訓練 など

※拠点避難所開設運営訓練の開始時間は各避難所で任意に決定する。

総合防災訓練について（各種体験訓練）

拠点避難所別体験訓練（H30年度実績）

- ①救急救命及び応急手当訓練（布水中）
- ②間仕切り及び簡易ベッド等組立訓練
- ③171番通信訓練、二次災害防止学習
- ④救援物資搬送訓練（御園小）
- ⑤避難所での体操講習（菅原小）
- ⑥発電機操作訓練（野々市小、県立大）
- ⑦防災気象報講座（野々市中）
- ⑧災害時の新聞紙の活用方法講座（富陽小、館野小、明倫高）
- ⑨その他（金沢工大：起震車、図上訓練）



拠点避難所別体験訓練（その他）

- ①防災講演会、知識の啓発
- ②発電機等レンタル機材の展示
- ③電力供給車両の展示
- ④防災グッズの展示
- ⑤物資の運搬、供給
- ⑥住宅の耐震補強の講座
- ⑦消防車両の展示
- ⑧消防署住宅用火災警報器啓発ブース



など

訓練全体

- ・訓練実施の是非
- ・訓練の規模
- ・訓練参加者の範囲

町内会

- ・独自訓練
- ・避難行動要支援者対策
- ・安否確認

拠点避難所

- ・訓練開始及び終了時間
- ・開設者
- ・参加者
- ・訓練内容



月 頃 (回覧板での周知に間に合う日程)